

第4回 北杜市有機農業推進検討会 会議録

1. 開催日時 令和6年2月7日(水) 午後3時半から
2. 開催場所 北杜市役所 大会議室
3. 出席委員 畑山貴宏、石川宏治、高瀬弘樹、中村和希、草野香寿恵、
瀬戸義和、加藤聡志、福田和久
4. 事務局 産業観光部 商工・食農課 食育・地産地消担当 岡田茜、内藤光
5. 会議録署名 高瀬委員、瀬戸委員
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人 0人

1. 開会

2. 会長挨拶（畑山会長）

3. 議事（議長 畑山会長）

(1) 北杜市有機農業実施計画の数字目標について事務局より説明

| | |
|-----|--|
| 委員 | 有機 JAS を取っていて環境保全型農業直接支払の取組者になっていない人はいるか。 |
| 事務局 | 若干名の野菜生産者がいらっしゃる。数字は提示できるようにしておく。 |
| 委員 | 数字目標が低い。 |
| 事務局 | この目標は、昨年度の検討会や県の担当課を経て策定を行った「北杜市有機農業実施計画」から抜粋している。変更するには、農水省への手続きなども必要になることから、現在変更は考えていない。あくまで取組人数や面積については目標数値であるため、これを超えられるように取組を進める必要がある。現在環境保全型農業直接支払の数字を使っているが、環直を辞める人もいる。継続してもらえるような取り組みも今後必要になると考えている。 |
| 委員 | 環境保全型農業直接支払を辞める人はどのような理由で辞めるのか |
| 委員 | 書類の作成が面倒となることや、それぞれ個人の都合でやめたいという人もいる。特に事務負担が生じることから費用対効果が悪いため、ということが理由として考えられる。目先を追うより、新たに農業を始めやすい環境や基盤整備を行っていく方がよいのではないか。 |
| 委員 | 学校給食における有機の割合で米と野菜に分けてあるか。 |

事務局 分けてある。重量ベースで考えると米の方が多い。今後、野菜についても、増やしていくが、様々なところに協力してもらいながら協議が必要。

委員 2年連続で視察に行ったが、視察地はそれぞれ地域で有機農業者を支えている構造があったが、北杜市ではどうか。農業者が農業をやすく、提供しやすい環境を整えていくことが必要だと思う。

委員 北杜市でも新規就農者の支援を、農業地域おこし協力隊や新規就農者の研修場所提供、資金面などでも行っているし、全国的に見ても支援に力を入れている方だと思う。ただ、他地域の見習うべきところは見習って、市、県の関係機関と制度の充実を図っていくことが重要だと思う。

(2) 令和4年度「試行的な取組」の实地報告について事務局より説明

(3) 令和5年度北杜市有機農業実施計画の推進状況について事務局より説明
有機農業先進地視察について委員から報告

令和6年1月11日 茨城県 JAやさと、 埼玉県 イオンアグリ創造

委員 事業費の内訳を教えてください。

事務局 後ほど委員に送ります。

委員 視察の報告はどこかで見られますか。まとめた資料がほしい。

事務局 アンケートを取っているので蓄積情報として共有可能なので委員の皆様には展開していきます。

委員 アイガモロボリースとあるが、市では何台あるか

事務局 市では3台持っているが、令和5年度アイガモロボ貸出の募集をしたところ5グループの申込みがあったため、2台リースをした。農業振興課が所管の県の事業で市内の農家では12台購入した。

委員 資料4のアンケートの結果は一概に言えないが、スーパーにおいて特売をしてはどうか。

| | |
|-----|--|
| 事務局 | いちやまマート城山店にて協力して頂き、特売を8月に行った。売上金額は出せないが、前日比3倍だった。今後は物流の問題等もあるが、近場で続けていきたい。 |
| 委員 | 次の作戦を考えていきたい。 |
| 委員 | 資料4スーパーの有機農業農産物に関するアンケートの結果を見て、消費者が持って帰れるようなチラシがあれば関心をもっともってもらえるのではないか。 |
| 事務局 | 来年度の事業の参考にする。 |
| 委員 | プロモーションに力を入れてブランド化につなげて、計画的に活動を続けていく必要がある。 |

(4) 令和6年度北杜市有機農業実施計画の事業内容について事務局より説明

| | |
|----|--|
| 委員 | 米作りの勉強会は立ち上がり月1回程度集まっている。学校給食に有機米を使用してもらおう取組を進めている。機械を一式そろえると相当な金額がかかってくる。機械に投資すると身体的負担は軽減される。若い後継者が農業に入ってもらえる仕組み、支援を考えていきたい。 |
| 委員 | 消費者には有機農産物は値段が高い印象があるため、料理教室等を通じて消費者に知ってもらい、身近に感じる取組を進めてほしい。 |
| 委員 | 環境保全型農業直接支払がここまで拡大して感謝している。これからの北杜市内の有機農業については、例えば明野町内での耕作放棄地の解消に伴う2ha程度の有機農業用地の団地化を考えるなどの取り組みも必要になる。圃場整備をするには受益者負担金10%が必要であり検討が必要となるため、今日の意見を参考にするなど、地域の方の話も聞きながら慎重に進めたい。 |
| 委員 | 受益者負担金とは？ |

事務局

個人の土地であるため、圃場整備をするために補助事業を導入し公費9割で、受益者1割負担している。これまでは企業が伴うため実施できていたが、個人の農業者が企業的農業を実施する法人と比べて潤沢に資金があるわけではないため、有機農業を推進するからには農業振興公社と共同で施策を考えていきたい。

議長

その他、意見がないようであれば本日の会議は終了としたいがよろしいか。

委員

異議なし。

午後4時半終了

以上、第4回北杜市有機農業推進検討会の内容を記載し、その内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

署名委員

高瀬 弘樹



署名委員

瀬 義和



